

チーム名	おさかな研究室	大学名・学部	東京経済大学 経営学部	福島復興ステージ
プラン名称	「宿題終わった？」 町と子どもの伸びる夏			
テーマ	復興に向け前向きに取り組んでいる方と連携した「観光まちづくり」			
リーダー名	本間大暉	メンバー名	本間大暉、八鍬賢太、岡野谷知花	
指導教職員名	青木亮			

1 問題認識

檜葉町と広野町

県が主導する従来の教育旅行では、町や個人単位での利益還元がされにくい

人々の認識

人それぞれ「復興」のゴール意識が異なることによる、将来の行き詰まり感

2 問題の解決策

町や個人単位に利益が還元される「教育旅行の個人化」をテーマにした提案

&

「伸びる」という意味を持った新しい「ふっこう」（福興）のゴール提案

3 提案プランの新規性

01. 3年かけて完成させる長期来訪の仕組み

02. 学年に合わせた最適なアウトプットの提案

03. 「ある程度復旧した町」にスポットを当てた「震災にとらわれすぎないプラン」

他

4 提案プランの実現計画

「宿題終わった？」 町と子どもの伸びる夏

「夏の自由研究」を観光の目的に

提案内容

小学4年生

山遊び・川遊びで自然のおもしろさを体感しよう

被災地区を回り自然のこわさを先生に学ぼう

Output

ワークシート

小学5年生

農家にて職業体験をさせてもらおう

漁業組合にて職業体験をさせてもらおう

Output

新聞

小学6年生

広野町を探検し自分の視点で町を観察しよう

檜葉町を探検し自分の視点で町を観察しよう

Output

パンフレット

3年間続けて来訪し、はじめて完成されるテーマ

町の読解力を身に着ける

プランのキーパーソン

協力了承済み

【自由研究ツアー隊長】として町巡りに同行
一般社団法人ならはみらい 森様 in 檜葉町

合同会社ちゃのまプロジェクト 青木様 in 広野町

実現可能性



町の職員の方をはじめ、福島大学教授の方など様々な方に当プランへのご賛同をいただきました。

5 実現した場合の効果

経済波及効果

10年間で約7500万円

子ども・町への効果

- ・町の磨き方がわかるようになる
- ・町や個人単位に経済的利益の還元

「福興」の実現